

奥州市江刺区大工棟梁佐藤松之助の建築資料について

瀬川 修

奥州市江刺区大工棟梁佐藤松之助の建築資料について

瀬川 修

岩手県立博物館, 020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Iwate Prefectural Museum, Morioka 020-0102, Japan.

1 はじめに

佐藤松之助は文久3年(1863)、現在の奥州市江刺区に生まれた。16歳で大工棟梁の弟子となり修行ののち、花巻の大工棟梁2代目高橋勘治郎の弟子となった。その後黒石寺薬師堂建立など、多くの社寺や住宅建築を手がけた。また、弟子も多く育て、信頼も篤く江刺屈指の名工と呼ばれている人物である。

平成22年、奥州市江刺区在住の佐藤幸子氏よりご先祖である佐藤松之助の残した資料の調査依頼があり、約300点にのぼる資料を整理したところ、重要な建築資料をはじめとして、当時の生活や社会生活を物語る多くの資料を発見した。

資料は①図書、建築設計図書、メモ書きなどの佐藤松之助の仕事に関するもの②本人および家族の生活に関するもの③当時の社会生活を示すもの④その他におおよそ分類できることがわかった。このうち、①本人の仕事に関するものと②のうち本人の人とりに関するものの資料を用いて、大工棟梁佐藤松之助を紹介する。

2 佐藤松之助について

(1) 松之助の略歴

佐藤松之助(以下、松之助と略す。)は、文久3年(1863)9月8日、江刺郡玉里村に生まれた。これは明治時代の戸籍によるもので、文久3年当時は角掛村と呼んでいたようである。松之助の一生に関する資料には、本人自筆の「履歴」(登録番号98674。以下、数字のみを記す。)と明治33年の「戸籍謄本」(98636=非公開)がある。

資料1 履歴(98674)

履歴

文久三年九月八日生 佐藤松之助
私九歳ノ時小学校就菊池勘兵衛門人也
此間六ヶ年間授学致シ拾六歳時従リ

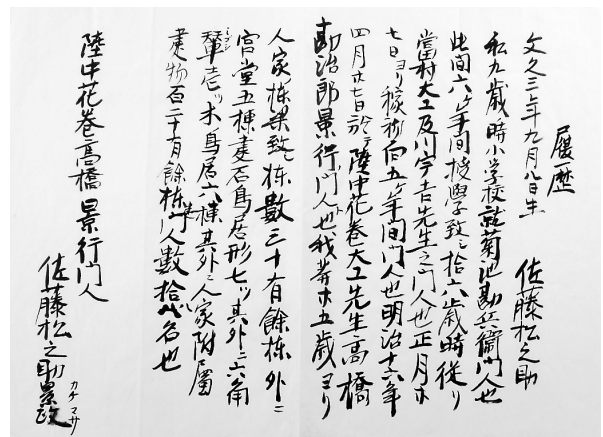


写真1 履歴(98674)

当村大工及川宇吉先生之門人也正月二十七日ヨリ稼初向五ヶ年間門人也明治十六年四月二十七日於テ陸中花巻大工先生高橋勘治郎景行ノ門人ト也我輩二十五歳ヨリ人家ノ棟梁致シ棟数三十有餘棟外ニ宮堂五棟建石鳥居形七ツ其外ニ六角鞆壺ツ木ノ鳥居六棟其外ニ人家附属建物百二十有餘棟建門人数拾八名也

陸中花巻高橋景行門人

佐藤松之助景政

この資料によると、松之助は9歳(明治4年、1871)で小学校に入学し、6年間勉学に励んだ。菊池勘兵衛とは小学校の教員であろうか。自分をその門人と呼んでいることが注目される。松之助が大工であったために、このように意識をもったのか、当時の小学校教育の一般的な認識なのかはわからない。松之助は大工修業の親方である高橋勘治郎については大工先生と呼んでいる。松之助は及川卯吉を大工教師とも呼び、弟子が親方を大工先生と呼ぶ例は松之助の門人にも見られる。

16歳(明治11年、1878)で大工及川宇吉の弟子となり、5年間修業している。「大工道具買高金書記」

(98572)によると、弟子になったのは、明治11年(1878)旧正月27日である。この修業を終えたのが明治16年(1883)である。同年4月27日に花巻の大工棟梁高橋勘治郎の弟子となった。25歳(明治20年、1887)から棟梁を始めたというから、名工高橋勘治郎のもとで修業したのは4年間ということになる。

以後、手がけた建築は、住宅約30棟、社寺建築5件、石鳥居7件、六角葎1件、木製鳥居6件、附属建物120棟である。また、弟子は18人である。

末尾に自分を佐藤松之助景政と書き、職名も名乗っている。高橋勘治郎は景行と名乗っているから、景の1字をもらったのであろう。

なお、この自筆による「履歴」は何のために使われたかは不明である。想像するに、松之助は晩年顕彰を受けるが、その時に使われたものではないだろう。

さて、及川卯吉の下での修行中の資料として「巻物大事巻一」(98678)と題した写しがある。末尾に「明治十五年壬午歳旧7月16日写し 大工教師笈川卯吉弟子千葉松之助 拾六歳より大工相始」とある。明治15年(1882)の7月は修業の年季が明ける半年前である。及川はここでは笈川と書かれているが、どちらが正しいかわからないので、本論では及川を使用しておく。

また、千葉松之助とは佐藤松之助のことである。後に婿養子となったため、佐藤の姓を名乗ることとなった。明治20年(1887)に妻となる佐藤ワキと結婚し、2女をもうけている。なお、この後の資料からもわかることであるが、明治20年(1887)以前にも佐藤を名乗っている。戸籍では明治20年(1887)の入籍となっているが、それ以前から佐藤家とは深い繋がりがあったのであろう。

松之助は勉強家で、何人かの規矩術を勉強している。たとえば、「無題」(98725)を見ると、「尾極鴨桧鈴木流ノ墨」や「尾極鴨桧ノ割平内安房先生流墨」(写真2)と書かれた図面がある。平内安房先生とは、『匠家矩術要解』の著者で、幕府大棟梁平内安房齊延のことであろう。

同様に、「立河流扇極割之図」「觸墨扇極武田流割」「武田流扇極割」(いずれも「扇垂木圓径之図」98738に所収)などが見られる。また、「無題」(98672=後述資料10)は建築儀礼や木割を綴じたものであるが、その中に「右の通略式作法也」と書いた後に、宮城村澤先生流と書かれている。

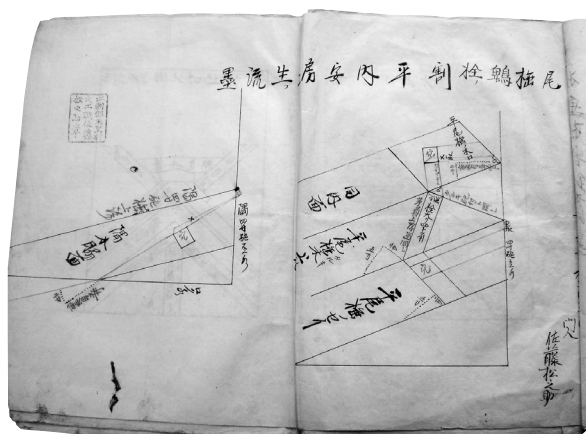
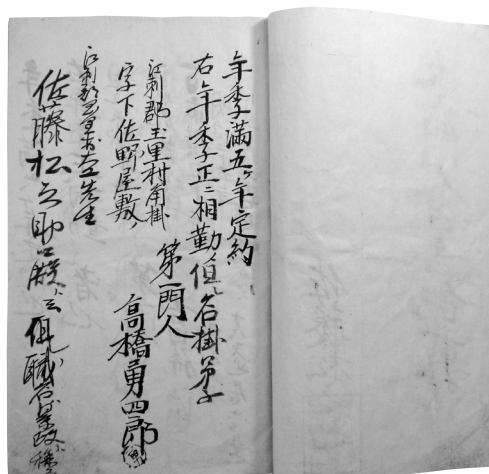


写真2 「尾極鴨桧割平内安房先生流墨」

(2) 弟子について

次に松之助の弟子についての資料である。

資料2 大工門人姓名記載簿(98570、下 写真3)



年季満五ヶ年定約

右年季正ニ相勤メ但シ名掛弟子

(住所) 第一門人 高橋勇四郎 印

江刺郡玉里村大工先生

佐藤松之助殿ト云 但シ職名景政ト称ス

年季満六ヶ年定約也

右年季正ニ相勤メタル者也

但シ添弟子

(住所) 第二門人 吉田孫治 印

以下、略

先に門人が18人に及んだことを記したが、その関連資料である。明治25年(1892)から大正9年(1920)までの間の記録で、門人は第1から第5門人と称されるが、18人分はない。氏名には押印があり、佐藤松之助殿と宛名が書かれている。したがって、この文書

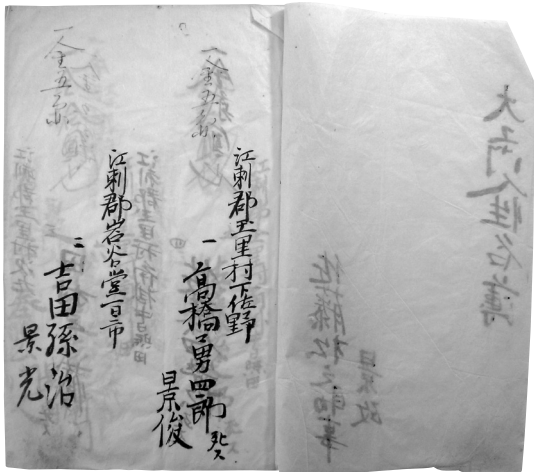
は松之助が書いたものではなく、弟子が書いて提出し綴ったものである。棟梁が弟子に証明書として発行するのは理解できるが、弟子が自分の棟梁に年季を終えたと報告するのは少々理解に苦しむ。しかし、そのような慣行であった。また、年季は松之助がそうであったように、この頃の大工の修業年季は5年であったようだ。

松之助の第1から第5門人の姓名のみを記す次のようである。

第1門人高橋勇四郎、第2門人吉田孫治、第3門人田村三蔵、第4門人佐藤伊勢松、第5門人佐藤孫太郎。ほかに順位はついていないが、千葉辰右衛門、浅野市治が記されている。

なお、高橋勇四郎には名掛門人、吉田孫治には添門人の名前が付けられている。この意味は不明である。別の資料では、墨門人という名前もある。

資料3 大工門人姓名簿 (98750、下 写真4)



前述の資料「大工門人姓名記載簿」と同じような名称であるが、こちらには高橋勇四郎をはじめとして18人の名前があり、奉公門人と墨門人に区別されている。おそらく、奉公門人とは次項で取り上げるような一般的な弟子入りをした門人で、墨門人とは規矩術、設計を習いに来た門人のことをいうのではないだろうか。また、名前の後に「死ス」と記された者がある。この時点ですでに死去していたのであろう。このことから、この資料の作成時期は資料「大工門人姓名記載簿」より後であろう。

門人の氏名を列挙すると次のとおりである。姓名の後に職名を持つ者がいる。なお、玉里村以外の者は、村名をかついで記した。

高橋勇四郎景俊死ス、吉田孫治景光、田村三蔵死ス、佐藤伊勢松死ス、佐藤孫三郎死ス、千葉辰右衛門景明(以上、奉公門人)。菊池徳元景秀、岩崎卯平治、及川伊左衛門景信、及川正治郎(藤里村)、昆野初吉(広瀬村)、中田富三郎(藤里村)、阿部進(藤里村)、佐藤重吉、浅野市治、及川安太郎(以上、墨門人)。菊池正治、遠藤幸治。

なお、門人の氏名にそれぞれ二円から十円の金額が記されている。また、大正2年(1913)正月と大正3年(1914)正月の日付がある。

(3) 仕事について

次に松之助の仕事を見てみよう。松之助は「履歴」にあるように、自分の手掛けた仕事を書き残している。「履歴」以外では「明治十一年ヨリ大工相企テ候二附建前棟数覚附記」(98747)がある。

これは明治11年(1878)以降の建前棟数の記録である。明治11年(1878)は大工及川宇吉の弟子になった年であるから、この記録は修業時代のものが含まれている。一つ一つに住所氏名と規模(桁行と梁間であるが、松之助は縦・横と記している。)が記されているが、建築年はない。

それぞれの分類によって棟数のみを記すと、黒門3、神輿4、宮6、住宅27、倉(板倉及び土蔵を含む)25、厩31、小屋17、薪小屋12、厠14、風呂23である。

このうち、黒門とはよくわからないが、守林寺と長屋門の3件が記されているのみで、守林寺は奥州市江刺区玉里にある寺院である。このように、「履歴」で記されていることがらと、この資料では大きく異なっていることがわかる。たとえば、「履歴」では社寺建築は5件であるが、ここでは神社は宮として記載されているものの寺院本堂はない。寺院の中には黒石寺(奥州市水沢区)や安養寺(花巻市)などが当然記載されるはずである。高橋勘治郎と仕事をしたのであるから、代表作として記されるべきものである。おそらく、黒石寺や安養寺の仕事は親方の手伝いであって、松之助はここには単独の仕事だけを記したと思われる。

また、「履歴」の附属建物はこの記録で具体的に明らかになった。すなわち、厩、小屋、薪小屋、厠、風呂である。長屋門は附属建物ではなく、黒門に入れている。

総数においても本人の「履歴」と異なる。この資料は建築順に書いているわけではないので、後に思い出

しながらまとめたものであろう。「履歴」と同じように、後の顕彰のためにまとめられたものであろう。

なお、この資料に記されていないが、「上棟祝詞」(98680)によると、明治28年(1895)4月28日に鈴木與平治本宅を上棟している。この上棟祝詞に日付と鈴木與平治の名前が記されていて、実際にその時に使われたものであることがわかる。松之助、32歳の時の仕事である。

また、松之助は明治11年(1878)から大正14年(1925)までの仕事日数と収入を記録している。それが「大工相初メヨリ取金高調附帳」(98690)である。

資料4 大工相初メヨリ取金高調附帳 (98690)

明治十一年寅年大工働人数調合計
工数合計百七十五人三分
此金計二円六十二銭五厘

明治十二年卯歳大工工数調
工数合計二百一十一人壹分
此金合計五円二十七銭七厘

と続き、大正14年(1925)で終わる。明治11年(1878)は大工の修業を始めた時であるが、175日働き、2円62銭5厘の収入があったことになる。弟子として働きながら、収入があったとは驚くが、この記録からそのように読める。1日当たり1銭5厘ほどである。日数が少ないのは、弟子入りの年だからであろうか。次の年から200日を越え、230日から250日の日数である。

このように48年間の記録を取っていることから、松之助の几帳面な性格が伺える。

なお、大正12年度(1923)に関しては別に資料があり、一年の仕事ぶりが詳しくわかる。

資料5 大正拾二年度大工働工数覚附帳 (98748)

萱生ノ及川庄蔵殿にて
大正十一年旧十二月十日より二十五日まで
一円二十銭四分
工数拾三人八分 佐藤松之助
大正十二年旧正月二十三日より二十九日迄
工数七人
大正十二年旧二月一日より七日迄
工数七人
三口合計式拾七人八分勘定済

というように記されている。

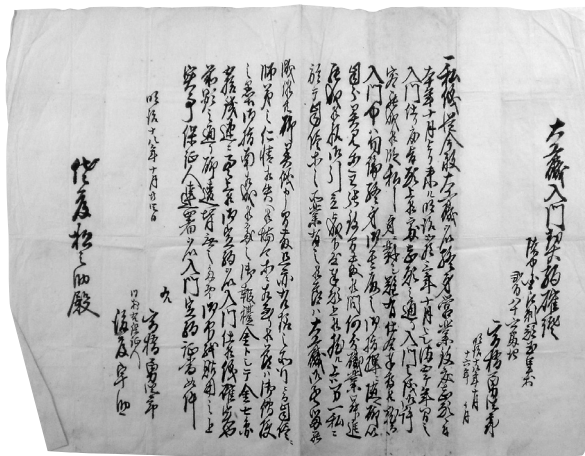
3 建築習俗について

松之助が残した資料の中にいくつかの建築習俗を見出すことができる。通過儀礼としての弟子入りと上棟式をはじめとする建築儀礼を取り上げてみる。また、屋根替え等受帳、家作の支払い帳などのいわゆる普請帳が残されている。

(1) 通過儀礼(弟子入り)

一般には親方の下で5年程度の修業をし、お礼奉公を何年かした後、一人前として独立することができる。その時に大工道具一式をもらうというのが通例のようである。資料6により、松之助の生きた明治時代の江刺地方での風習を知ることができる。

資料6 大工職入門契約確證 (98739、下 写真5)



いわゆる弟子入り証文である。弟子の高橋勇四郎が弟子入りした際に書かれたものである。明治18年(1885)10月24日、高橋勇四郎は16歳であった。この年齢で松之助自身も弟子入りした。高橋勇四郎は松之助の一番弟子であるので、この資料は非常に貴重であるといえよう。全文は次のとおりである。

大工職入門契約確證

陸中国江刺郡玉里村
式百八十六番地
高橋勇四郎
明治十八年十月
十六年 月

一私儀従今般大工職右終身營業致度志願ノ旨
本年十月より来ル明治貳拾三年十月迄満五ヶ年間之
入門仕り度旨願上候處志願之通り入門之儀御許
容罷成候段私ノ身ニ対シ難有仕合奉致共就テハ
入門中ハ勿論終身御貴殿之御指揮ニ従い聊以
自己異見等主張致万敷候間何分職業昇進
罷成候様御引立被成下度奉願上候然ル上ハ万一私ニ
於テ自倦等之所業有之候節ハ大工職御免留罷
成候共聊異儀申し間敷是亦右様之所行ニテ自倦ニ
師弟之仁情相失へ候□□可等々右通候節ハ御伝授
之墨付御指南被成候處之御報禮金トシテ金七円
五拾錢連ニ事上候御定約右入門仕候儀確定也
前願之通り聊ノ違背無之ため御印紙貼用之上
定事保証人連署右入門定約証書如件

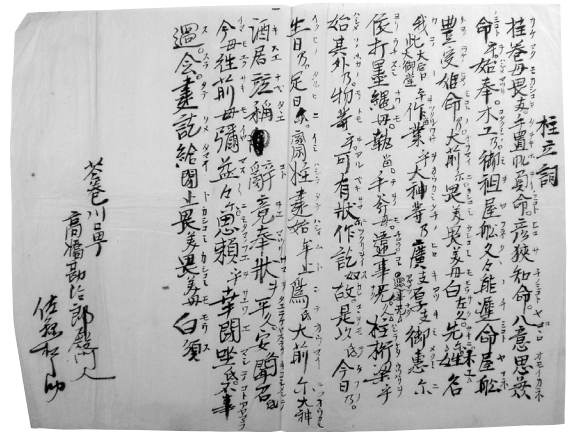


写真6 柱立詞

いまもゆくさきも いやますますに みたまのちえをさいわ えまして ことあやまら
今母往前母弥益々爾思頼乎 幸閉坐氏不 事
すすらたてそめたまえ とかしくみかしくみ ももうす
過會建訖給閉止 畏美畏美母白須

明治十八年十月二十四日

花巻川口町

右 高橋勇四郎
同村右保証人 後藤宇助

高橋勘治郎殿門人
佐藤松之助

佐藤松之助殿

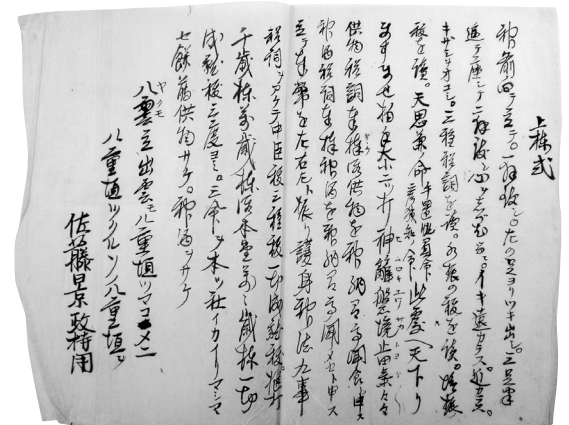
資料8 上棟式 (98742、下 写真7)

(2) 建築儀礼 (上棟式など)

一般的な上棟式及びその前後の建築儀礼で使われる
祝詞には、次のようなものがある。

「新鉾詞」(98734)、「柱立詞」(98745)、「上棟式」
(98742)、「上棟祝詞」(98680)、「御神酒祝詞」(98679)、
「御神供祝詞」(98664)、「御燈明祝詞」(98663)、「清
祓祝詞」(98726)

このうち、「柱立詞」(98745)、「上棟式」(98742)、
「上棟祝詞」(98680)を取り上げる。このうち、「上棟
式」は上棟式の持ち方、所作などが記されている。



上棟式

神前に向て立ちて。一拝服し。左の足よりつき出し。
三足半進みて座して二拝服し、心をしずむるに、いき
遠からず。近からず。きざしをおこし、三種祝詞を読
む。水振の祓を読(む)。□振の祓を読(む)。天思兼
の命、手置帆負の命、彦挟知の命 此処へ天下ります
ませ。柏手大小二つ打、神籬磬境止田気々々供物祝詞
奉捧、御供物を神納間高聞食と申す。神酒祝詞奉捧、
新酒を神納間高聞めせと申す。立ちて奉幣を左右左と
振り、護身神法九事祝詞をあけて、中臣祓三種祓一切
成就祓。槌打千歳棟万歳棟御本堂万万歳棟一切成就祓
三度よみ、三命を本つ社いかいりまませ餅膳供物さ

資料7 柱立詞 (98745)

(読みは原文のとおりである。以下、同じ。)

柱立詞

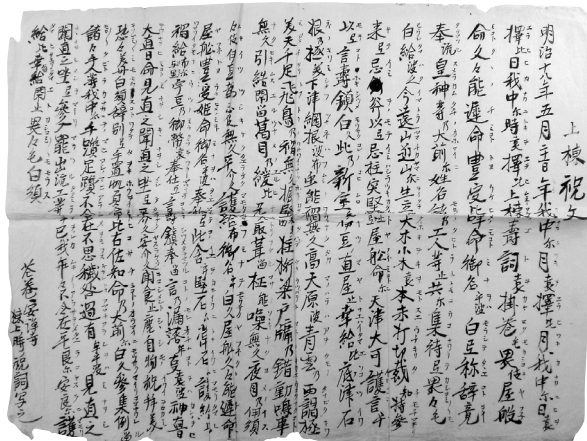
かけまくも かしこきた おきほ おいのみことひこさ ちのみことや こころおもいかねの
掛卷母畏支手置帆負 命彦挟知命八意思兼
みことをはじめまつりこたくみの みおややふねくくの ちみことやふね
命乎始奉木工乃御祖屋船久能運命屋船
とようけひめのみことのおおまえにかしくみかしくみ ももうさく さきにこたくみ
豊受姫命乃大前尔畏美畏美母白左久。先尔木工姓名
がこの
我此大宮大御堂乎作留業乎大神等乃広支厚支御恵尔
よりうちずみなわも とる ておのもちがうことな くあやまちなくはしらけたうちばり
依打墨繩母執留手斧母 違事無久過事無柱桁梁乎
はじめそのほかのものども あるべきさまにつくりおいかれこをもつてきょうの
始 其外乃物等を可有状作奴奴故是以氏今日乃
いくひのたるひにいみばしらたてはじめむとして おおまえにおおかみ
生日乃足日尔齋柱建始牟止為氏大前尔大神
きすえなべたえことおえまつりさまを たいらけくやすらげきこしめて
酒居並称辞竟奉状乎平久安久聞召氏

け(げ)。神酒をさけ(げ)。

八雲立 出雲も八重垣つまこめに 八重垣つくるその八重垣を

佐藤景政持用

資料9 上棟祝文(98733、下 写真8)



上棟祝文

明治十八年五月二十一日我中尔月袁擇比月我中尔... 奉流皇神等乃大前尔姓名諸乃工人等止共尔集待... 花巻安浄寺 棟上ノ時ノ祝詞写之

花巻安浄寺 棟上ノ時ノ祝詞写之

花巻市安浄寺建立は高橋勘治郎の仕事である。親方... の下で働いていた時に写したものであろう。

なお、このような儀式の次第や作法については、「無題」(98672)でその一部を知ることができる。この資料は写しであるが、新建祭略式では次のように記される。なお、末尾には「宮城朴澤先生流」と記されている。(2ページ)

資料10 無題(98672)

新建祭略式

- 一、其家之大極柱ニ可用柱を削也
一、棟梁柱の本の方ニ居ル
一、添棟梁柱之末の方ニ居ル

(3) 普請帳

資料11 本宅屋根替金・米・萱申受覚帳(98616)

大正13年(1924)旧3月3日から7日まで屋根の葺き替えが行われた。その時の受け帳である。平均すると、萱を2駄、白米・魚・豆腐・煮しめなどの食料、男女の手伝い3人から8人程度である。かかった費用は清酒7斗5升、肴代30円、ぐし餅1石4斗、屋根葺き給料は1人1円10銭で8人(総勢62人掛かりであったが、その内54人は手伝いであったという。)

資料12 家作ニ付諸木買入金其他諸職人日給料支払帳(98571)

明治27年(1894)旧2月から34年(1901)7月までの、松・槻木・栗などの木材などの購入を記録している。柱など用途は記されているが、自宅なのか家作については具体的には記されていない。

4 教本について

大工の家には共通の教本が発見されるものである。たとえば、盛岡藩大工棟梁本林常将の『匠家雛形』などはその代表といえるだろう。松之助も例外ではなく、この教本を所有していた。残っている教本は8点(巻本まとめて)で、それほど多くなく、以下のとおりである。

『大工初心図解初編』猿田長司著(98749)

『匠家雛形』本林常将著(98754)

『大匠雛形大全』(千鍾房刊)(98727)

『規矩階梯』(98728)

『いろは引紋帳』田中菊雄著(98765)

『大工日用唐尺秘伝』本林重之助常将著(98757)

『巻物大事』(写し)(98678)

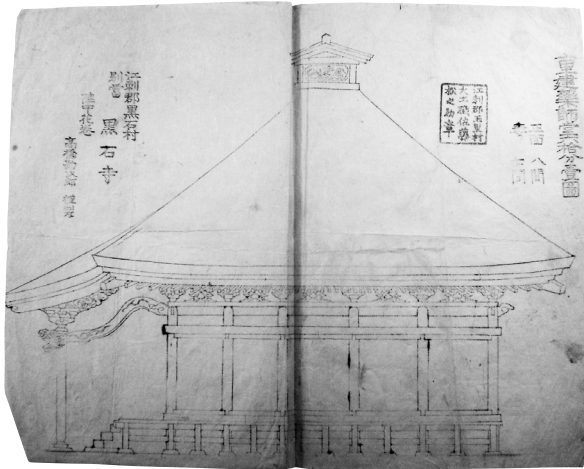
『秘伝書図解』（写し。原著文照軒刊）（98751）

このうち『卷物大事』は、原本はわからないが写しである。『秘伝書図解』は出版された図書の写しである。

5 雛形及び設計図書

雛形は数量が多いが、必ずしも完全な姿で残っていない。中にはいろいろな書きものを乱雑に綴ってあるものもある。図面では特筆すべきは、黒石寺薬師堂であろう。立面図と木割（書）がある。

資料 13 重建薬師堂六拾分壺図（98667、下 写真9）



奥州市水沢区の黒石寺薬師堂（本堂）の側面図である。黒石寺は2代目高橋勘治郎の代表的建築のひとつで、明治14年（1881）山火事で焼失した後、再建したものである。正面8間、妻7間。左隅には高橋勘治郎謹製とある。右上の朱印は松之助の著作を示すと思われる、特に図面にはこの印があるものが多い。「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」とある。

資料 10 無題（98672 = 再掲）

黒石山内妙見堂木割^註

壺丈四面

- 中の間六尺貳拾四枝
- 脇の間二尺。八枝三四メ壺丈四拾枝
- 妻の間五尺貳拾枝貳間メ壺丈四拾枝

組物唐様三テ崎（手先）腰組

軒ノ出 地の垂木六枝四寸配。ひ縁三寸三分配
五枝二軒メ三尺出ル。向拝出本柱より
廿五枝六尺貳寸五分。本屋ひゑん
引下シ七枝地。ひゑん五枝三寸配

二口合メ三尺出ル。下ば軒の向より中迄
八本目しかる（継る）破風の定本柱六寸三分
五り。垂木壺枝貳寸五分垂木下ば壺寸壺分二り五毛
小間壺寸三分七り五毛

丸桁セイ七分取厚サ五分取。唐

破風請負桁間拾貳枝三尺と成。

本柱三分右本柱九分亀腹本柱

五分土臺^{きだ(ぎ)は}楷シ本柱九分五枝たし

本柱三分ノケコミ本柱三分縁板土臺上ニ

腰組倆厚サ貳尺壺寸縁板下ば迄

縁板上に本柱六分地長押本柱貳分半

敷居下ヨセ敷居上バより鴨居下ば迄

廿貳枝五尺五寸内法上ヨセカモイ貳分也内法

二ツ割中腰長押六分右二ツ割ヲ腰

長押上ばに定。中ヨセ上下貳分也。

上長押六分上に八分柱貫下ば四分

台輪幅柱程上三手崎（先）唐様

江刺郡山内

薬師堂

正面 六尺三寸間 八間

妻 七間壺尺貳寸六分

伝中二丈二尺六寸八分

○中の間壺丈貳尺六寸垂木貳拾枝

壺枝 六寸三分

垂木セイ 三寸四分

同下ば 二寸九分

地四寸配ひゑん三寸五分配桁中より

木負下角迄五尺茅負下角迄

八尺八寸貳分扇垂木也

向拝垂木三寸配内ひゑん配貳寸五分配

向拝中より地木負下角迄三尺八寸

茅負下角迄六尺三寸向拝出ハ

本柱より壺丈五尺七寸五分廿五枝也

柱大サ壺尺四寸向拝柱壺尺貳寸

縁□（東）大サ九寸地の貫七寸縁かつら

七寸五分石の上ばより縁板上端迄

四尺厚サなり。縁板三寸四分

地長押八寸五分。敷居厚サ三寸五分

内法八尺八寸鴨居厚三寸長押セイ

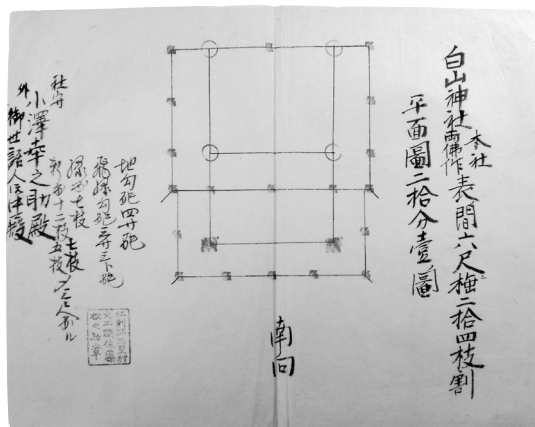
壺尺六四寸。小壁頭貫セ壺尺壺寸

厚サ四寸組物厚サ貳尺。三ッ斗大斗尺

四寸セイ八寸台輪幅尺四寸厚サ五寸五分

丸桁セイ貳拾壹尺一寸厚サ七寸向拝
 柱四本屋鴨居下端と定 皿斗
 セイ六寸巾尺二寸大斗セイ七寸壺分
 巾尺二寸枳肘木セイ五寸四分下ば四寸
 卷斗セイ五寸一分幅八寸六分。雲肘木セイ
 四寸二分下ば四寸かいる（臺）股セイ二尺
 虹梁セイ尺八寸厚サ尺二寸向拝桁
 セイ尺一寸厚サ七寸そば軒出拾枝
 六尺三寸ナリ。内通外下長押
 上ハ内板上ば也。
 板上に内上段下長押セイ八寸五分
 敷居厚サ三寸五分ナリ

資料 14 白山神社本社両佛作表ノ間六尺ニ種二拾四
 割平面図ニ拾分壹図 (98741、下 写真 10)



白山神社本社はおそらく梁川にある白山社であらう。左には地勾配、飛縁勾配、縁の出、軒の出の木割が記される。

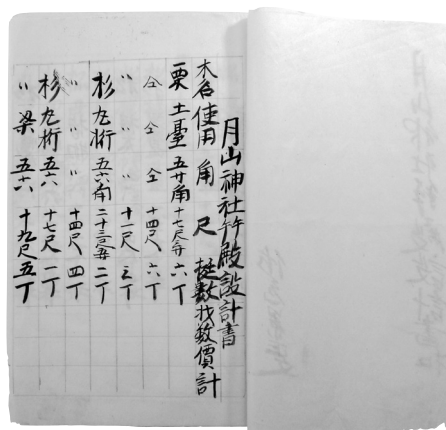
資料 15 石原村原体虚空蔵御本堂向拝虹梁 (98673、下 写真 11)



石原村原体虚空蔵本堂とは江刺区田原にある虚空蔵であらう。明治 23 年 (1890) 花巻の高橋勘治郎が手掛けたとある (『江刺市史第四巻社寺旧蹟篇』)。

長さ 5 尺、セイ 9 寸
 唐草の葉ほる時は真墨 2 本有時裏葉
 1 本有時表葉

資料 16 月山神社拝殿設計書控 (98669、下 写真 12)



月山神社とは地元の小社であらう。控とあるので、メモ書き程度のつもりであったのだろう。しかし、部材の樹種、大きさなどがわかる。

資料 17 地之間九尺石ノ鳥井設計 (98668)

履歴書にあった石鳥居のひとつと思われる設計図書である。

資料 18 六角輦堂 (98743、下 写真 13)



7 枚が綴られたものである。表題はないが、それぞれの図面を見ると六角輦堂に関する図面を集めたものと思われる。関連した資料には「六角神輿堂ノ木割」(98666) がある。

以下、松之助があらわした図面、雛形の一部を紹介する。

資料 19 ~ 22 社寺建築

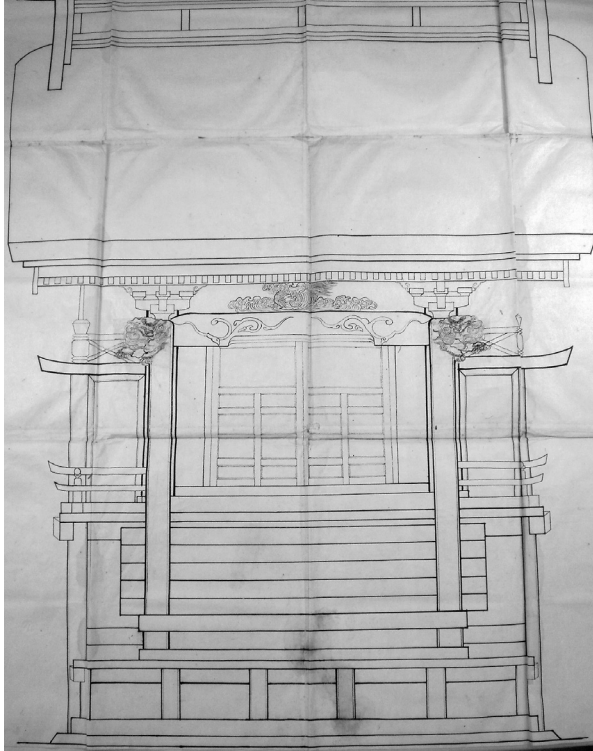


写真 14 資料 19 一間社三つ斗流作正面之図 (98623)

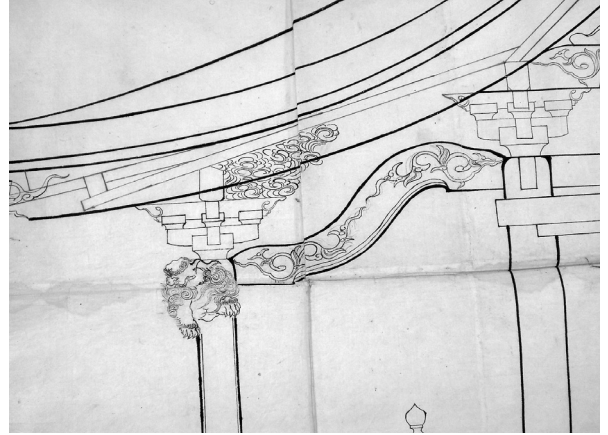


写真 17 同 部分図 虹梁

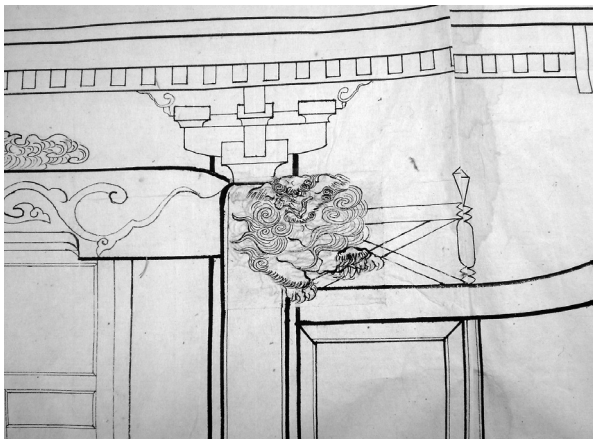


写真 15 同上部分図 木鼻

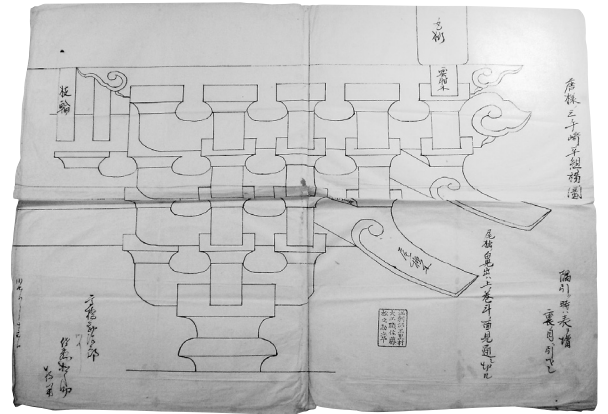


写真 18 資料 21 唐様ノ三手崎平組揚図 (98659)

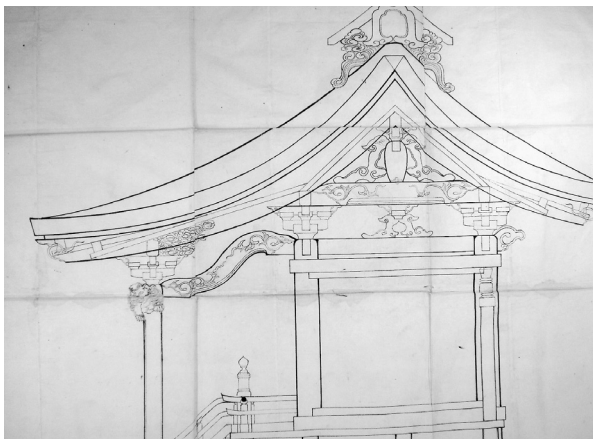


写真 16 資料 20 壱間社三つ斗流作妻之図 (98624)

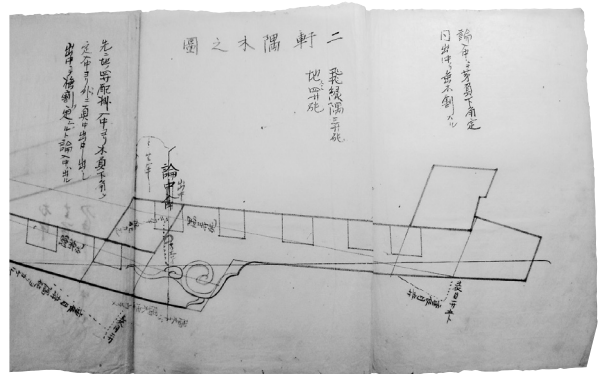


写真 19 資料 22 二軒隅木之図 (98622)

資料 23～27 絵様線形

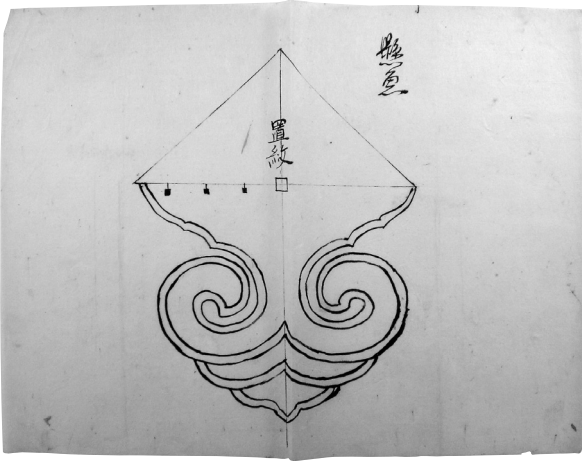


写真 20 資料 23 懸魚

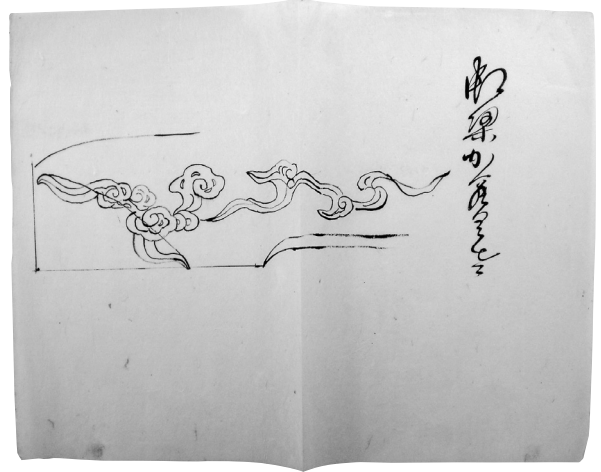


写真 23 資料 25 虹梁からくさ

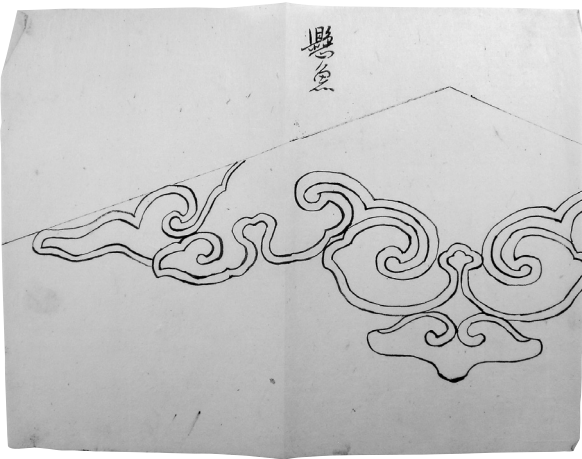


写真 21 同上

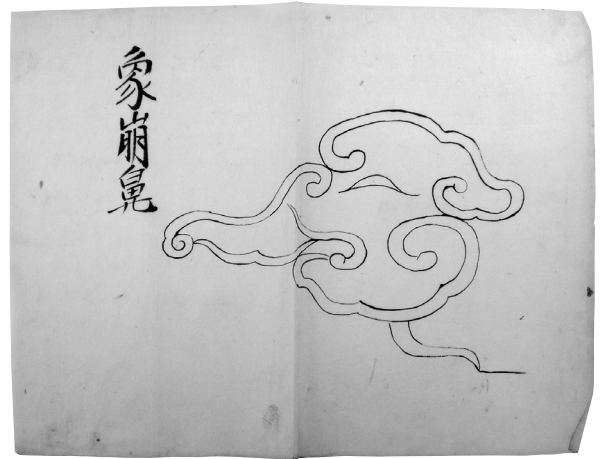


写真 24 資料 26 象崩鼻

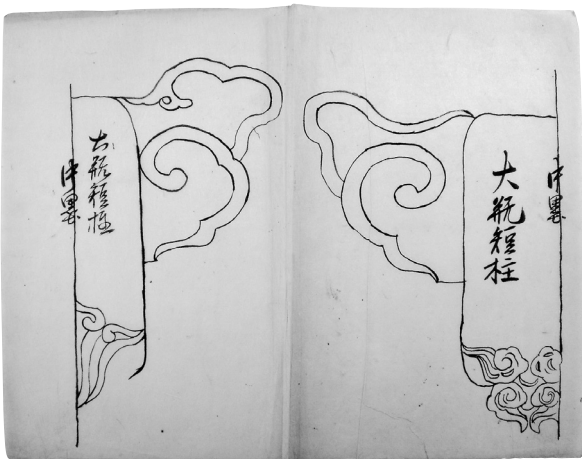


写真 22 資料 24 大瓶短柱

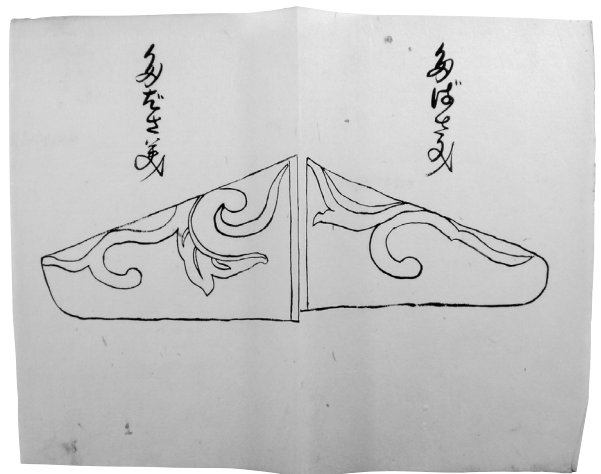
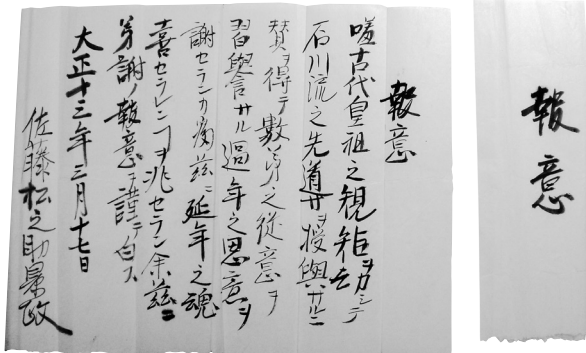


写真 25 資料 27 たばさみ (手挟)

6 顕彰

奥州市江刺区玉里の大森観音堂には松之助の顕彰碑が建立されている(写真28)。この顕彰碑を建立したさいのものと思われる資料がある。

資料28 報意(98684、下 写真26)

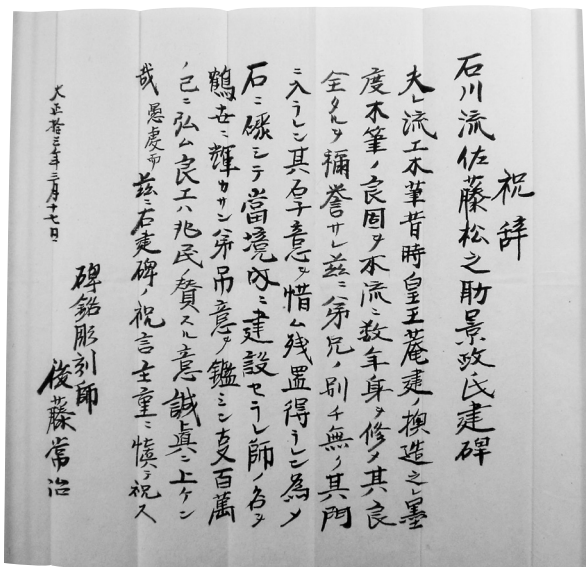


報意

嗟古代皇祖之規矩を劫して
石川流之先導を授与するに
賛を得て敷第之從意を
習譽さる過年之思意を
謝せらんか為茲に延年之魂
喜せられんことを兆せらん余茲に
第謝の報意を謹て白す
大正十三年三月十七日

佐藤松之助景政

資料29 祝辞(98688、下 写真27)



祝辞

石川流佐藤松之助景政氏建碑

夫れ流工木筆昔時皇王庵建塙造之れ墨
度木筆の良固を本流に数年身を修め其良
全たるを欄譽され茲に弟兄の別ち無く其門
に入られん其厚意を惜む残置得られん為め
石に碌して當境内に建設せられ師の名を
鶴世に輝かさん弟吊意を鑑みん故百萬
の己に弘む良工は兆民の賛する意誠眞に上けん
哉 愚虔而茲に右建碑の祝言主重に慎て祝す

碑銘彫刻師

後藤常治

大正拾三年三月十七日

資料28「報意」(98684)は石川流先導を授与されたことに対し、松之助が感謝の意を述べたものである。それに対して、弟子がそれを顕彰するために碑を建立した。その趣意書が資料29「祝辞」(98688)である。どちらも少々文章に不明のところがあるが、石川流をよく修め、その名を次世代に輝かせるためにこの碑を作ったというのである。

この記念碑の除幕式と思われる式典に関する資料がある。「式順」(98682)、「祝詞」(98683)、「祝齋」(98685)である。

資料「祝詞」(98683)と資料「祝齋」(98685)の二つの資料の日付は大正13年(1924)3月17日(旧暦)であるので、同じ祭礼の時のものである。「祝詞」から松之助の記念碑建立の際のものであることがわかる。「…岩手県江刺郡玉里村佐藤松之助景政伊是の處を千代萬代の記念碑の建地と定めて…」とある。

また、菊池徳元は大工門人総代として、次のような祝齋を述べた。

資料30 祝齋(98685)

祝齋

夫れ吾木工皇祖の規矩の
導受を得、予等日に業を営み
意安らかなるは誠に悦しき不耐 是
佐藤尊師の厚き情恵に依る
報るに茲に碑を設け鶴亀の延
年に遺さんと愚虔て祝齋す
大正拾参年旧三月十七日

大工門人総代

菊池徳元

佐藤尊師とは松之助のことである。その碑を建設し、後世に残そうという趣旨であるから、「祝詞」と同じ祭礼のものである。この二つの資料から松之助の記念碑が建立されたことがわかる。

「式順」(98682)は大工神祭除幕式の式次第とあるが、「祝齋詞」と「報意詞」があることから、同じ記念碑建立の際の式典のものであろう。除幕式というのであるから、おそらくは碑であろう。これには、大工師弟子総代として辰三郎の名(千葉辰三郎景明)がある。だが、祝齋で菊池徳元が総代を名乗っているのだから、合わない。総代は何人かいたのであろう。この「式順」の裏には菊池正治分と書かれてあるから、この司式は弟子菊池正治が行ったのであろう。

松之助はその後昭和5年11月13日に67歳で死去した。奥州市江刺区にある懸角山瑞徳寺に眠っている。

7 おわりに

松之助はよく旅行をしたようである。鳥海山、羽黒山、酒田などの社寺参詣の御札などが残されている。県内では、早池峰山と岩手山を続けて登山している。その記録は「早池峰山巖手山道中記」(98569)として残されている。明治25年(1892)閏6月23日に出発し、遠野から早池峰山に登り、門馬(現、宮古市)に降り、盛岡に宿泊した。そして今度は滝沢村姥屋敷から岩手山に登頂している。再び、盛岡に宿泊し、花巻経由で29日に帰宅した。要所までの距離と1行程度の記録をつけている。途中の日付はなく、どのくらいのペースで歩いたかはわからない。ただ、大出、松草、盛岡の3か所の旅籠の記録があり、宿銭を書いている。同行者はいたのであろうが、その記録もない。ただ、7日間で全行程を徒歩で行うという驚異的な体力と信仰に驚くばかりである。

また、松之助には名棟梁ぶりを示す次のような話がある。正法寺(奥州市)に京都の有名な大工棟梁が来た時に、玉里から歩いて通い、教えを受けたという。また、ある民家で煙出しの櫓が収まらず困り果てているところに、松之助が通りかかり、ノミ1本を持って屋根に上り、簡単に櫓を収めたという。

謝辞

この資料は所有者佐藤幸子氏のほか、伊藤肇氏(奥州市在住)ら関係者のご好意とご努力により、当館に寄贈された。資料は「佐藤松之助資料」といい、157



写真 28 石川流佐藤松之助景政碑
(奥州市江刺区玉里 大森観音堂)

点が登録された。紙面を借りて、改めて厚く御礼申し上げる。何かの機会に展示公開したい。

註

この資料に記されている木割書は、他に「江刺郡山内二重六角堂木割」がある。

参考文献

江刺市：江刺市史第四巻社寺旧蹟篇

要旨

佐藤松之助(文久3～昭和5 1863～1930)は、奥州市江刺区で活躍した大工棟梁である。花巻の大工棟梁、2代目高橋勘治郎の弟子であり、職名景政を名乗った。同市水沢区の黒石寺薬師堂を再建したほか、地元の社寺、住宅等を手掛けた。

佐藤松之助が残した資料は大工関係資料とそれ以外のものに大別されるが、本論では大工関係資料を使って、松之助の経歴、弟子、仕事及び建築習俗を、考察を交えて紹介した。この資料は平成22年に当館に寄贈され、「佐藤松之助資料」という。

キーワード：大工棟梁、佐藤松之助(資料)、高橋勘治郎、奥州市江刺区

佐藤松之助資料 掲載資料一覧

| No. | 掲載資料 | 登録番号 | 資料名 | 数 | 量 寸(縦×横) | 形態 | 備考 |
|-----|------|-------|-------------------------------|---|-----------------|------|--|
| 1 | 資料1 | 98674 | 履歴 | 1 | 24.0 × 32.7 | 一紙物 | |
| 2 | 資料2 | 98570 | 大工門人姓名記載簿 | 1 | 24.8 × 16.5 | 簿冊 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 3 | 資料3 | 98750 | 大工門人性名簿 | 1 | 24.0 × 16.2 | 簿冊 | 表紙右に「佐藤松之助事景政」とあり。 |
| 4 | 資料4 | 98690 | 明治十一年寅歳 大工相初メヨリ取金高調附帳 | 1 | 24.7 × 16.5 | 簿冊 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 5 | 資料5 | 98748 | 大正拾二年度大工働工数時覚附帳 | 1 | 26.5 × 13.7 | 簿冊 | |
| 6 | 資料6 | 98739 | 大工職入門契約確證 | 1 | 24.3 × 32.3 | 一紙物 | |
| 7 | 資料7 | 98745 | 柱立詞 | 1 | 24.7 × 32.5 | 一紙物 | 「花巻川口町高橋勘治郎殿門人」とある。 |
| 8 | 資料8 | 98742 | 上棟式 | 1 | 24.7 × 32.5 | 一紙物 | |
| 9 | 資料9 | 98733 | 上棟祝文 | 1 | 32.8 × 43.7 | 一紙物 | 末尾に「花巻安浄寺 棟上ノ時ノ祝詞写之」とある。 |
| 10 | 資料10 | 98672 | 無題(木割書ほか) | 1 | 16.6 × 48.2(最大) | 簿冊 | 新建祭略式など建築儀礼次第、黒石山内妙見堂木割などから成る。「宮城朴澤先生」とある。 |
| 11 | 資料11 | 98616 | 本宅屋根替金米萱申受覚帳 | 1 | 31.5 × 14.0 | 簿冊 | 大正13年 |
| 12 | 資料12 | 98571 | 家作二付諸木買入金其他諸職人日給料支払帳 | 1 | 32.7 × 12.2 | 簿冊 | 明治27年 |
| 13 | 資料13 | 98667 | 重建薬師堂六拾分壹圖 | 1 | 30.5 × 39.2 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。「陸中花巻 高橋勘次郎謹製」とある。 |
| 14 | 資料14 | 98741 | 白山神社本社両佛作表ノ間六尺二種二拾四枝割平面圖二拾分壹図 | 1 | 30.6 × 39.0 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 15 | 資料15 | 98673 | 石原村原跡虚空蔵御本堂向拝虹梁 | 1 | 32.5 × 95.7 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 16 | 資料16 | 98669 | 月山神社拝殿設計書控 | 1 | 24.6 × 16.7 | 簿冊 | |
| 17 | 資料17 | 98668 | 地之間九尺石ノ鳥井設計 | 1 | 24.1 × 33.0 | 一紙物 | |
| 18 | 資料18 | 98753 | 図面(六角堂ほか) | 1 | 31.2 × 62.7(最大) | 簿冊 | 7枚から成る。六角堂3、和様組物三ツ斗ノ図2、宮二向テ右ノ脇障子ノ図、高欄割。「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 19 | 資料19 | 98623 | 壹間社三ツ斗流作正面之圖 | 1 | 97.5 × 89.0 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 20 | 資料20 | 98624 | 壹間社三ツ斗流作妻之圖 | 1 | 113.5 × 94.0 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 21 | 資料21 | 98659 | 唐様ノ三手崎平組揚圖 | 1 | 47.5 × 66.0 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 22 | 資料22 | 98622 | 二軒隅木ノ圖 | 1 | 31.5 × 85.0 | 一紙物 | 「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 23 | 資料23 | 98737 | 懸魚 | 3 | 24.7 × 32.6 | 一紙物 | |
| 24 | 資料24 | 98698 | 大瓶短柱 | 1 | 24.7 × 32.6 | 一紙物 | |
| 25 | 資料25 | 98692 | 虹梁からくさ | 1 | 24.7 × 32.6 | 一紙物 | |
| 26 | 資料26 | 98697 | 象崩鼻 | 1 | 24.7 × 32.6 | 一紙物 | |
| 27 | 資料27 | 98736 | たばさみ(手挟) | 1 | 24.7 × 32.6 | 一紙物 | |
| 28 | 資料28 | 98684 | 報意 | 1 | 24.2 × 33.0 | 一紙物 | 「石川流先導授与」 |
| 29 | 資料29 | 98688 | 祝辞 | 1 | 24.5 × 33.2 | 一紙物 | 大正13年3月17日 |
| 30 | 資料30 | 98685 | 祝齋 | 1 | 24.5 × 32.7 | 一紙物 | 大正13年旧3月17日大工門人惣代菊池徳元 |
| 31 | | 98636 | 戸籍謄本 | 1 | 27.5 × 39.0 | 一紙物 | 明治33年3月10日発行。非公開 |
| 32 | | 98572 | 大工道具買高金書記 | 1 | 24.7 × 16.5 | 簿冊 | 「明治十一年寅歳旧正月二十七日ヨリ大工相初メ我十六年ノ春先生相付候。「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 33 | | 98678 | 新板 巻物大事 巻一(写し) | 1 | 24.6 × 16.1 | 簿冊 | |
| 34 | | 98725 | 無題(社寺建築図面) | 1 | 33.0 × 47.0 | 簿冊 | 6枚綴り。尾極鶴柱ノ割、千木・勝男木、鳥居などから成る。 |
| 35 | | 98738 | 扇垂木圓聖之図 | 1 | 31.2 × 42.3 | 一紙物 | 立河流。武田流。各頁に「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |
| 36 | | 98747 | 明治十一年ヨリ大工相企テ候ニ附 建前棟数覚附記 | 1 | 32.5 × 12.3 | 簿冊 | |
| 37 | | 98734 | 鉦始詞 | 1 | 32.8 × 43.7 | 一紙物 | |
| 38 | | 98680 | 上棟祝詞 | 1 | 24.1 × 94.0 | 一紙物 | |
| 39 | | 98679 | 御神酒祝詞 | 2 | 27.5 × 27.2 | 一紙物 | |
| 40 | | 98664 | 御神供祝詞 | 1 | 27.5 × 27.2 | 一紙物 | |
| 41 | | 98663 | 御燈明祝詞 | 1 | 27.5 × 27.2 | 一紙物 | |
| 42 | | 98726 | 清祓祝詞 | 1 | 24.7 × 32.5 | 一紙物 | |
| 43 | | 98749 | 改撰 大工初心圖解初編』上・下(猿田長司著) | 2 | 23.0 × 15.5 | 簿冊 | |
| 44 | | 98754 | 新撰早引 匠家雛形三篇 上・下(本林常将著) | 2 | 22.5 × 15.3 | 簿冊 | 中巻を欠く。 |
| 45 | | 98727 | 大匠雛形大全 一、二、四、五 | 4 | 25.6 × 18.0 | 簿冊 | 三を欠く。 |
| 46 | | 98728 | 規矩階梯 天、地、人 | 3 | 17.8 × 13.0 | 簿冊 | |
| 47 | | 98765 | いろは引紋帳 全(田中菊雄編集) | 1 | 16.0 × 7.5 | 簿冊 | |
| 48 | | 98757 | 大工日用唐尺秘傳(本林重之助常将著) | 1 | 16.3 × 7.1 | 簿冊折本 | |
| 49 | | 98751 | 秘傳書図圖解 全(写し) | 1 | 24.7 × 16.2 | 簿冊 | |
| 50 | | 98666 | 六角神輿堂ノ木割 | 1 | 24.6 × 15.7 | 簿冊 | |
| 51 | | 98683 | 祝詞 | 1 | 30.3 × 38.5 | 一紙物 | 大正十三年旧三月十七日 |
| 52 | | 98682 | 式順 | 1 | 13.2 × 27.0 | 一紙物 | |
| 53 | | 98569 | 早池峰山巖手山道中記 | 1 | 16.0 × 12.5 | 簿冊 | 明治二十五年閏六月。「江刺郡玉里村大工職佐藤松之助章」の朱印。 |